

投稿論文

多文化教育と 日系アメリカ人のナショナルアイデンティティ

岡 本 智 周*

Multicultural Education and
Japanese Americans' National Identity

Tomochika OKAMOTO

本稿は、アメリカの歴史教育における多文化主義の成果と課題に関する論考である。具体的には、①1980～90年代に刊行された歴史教科書の内容分析と、②その年代の教育を受けた日系アメリカ人4世のアイデンティティ構成の検討を行い、両者の対応を考察する。歴史教科書からは、「アメリカ国民」の概念がマイノリティの存在をより多く含んだものへと再編されていること、しかし多文化教育の観点も第1次ナショナリズムを前提とするために、叙述の対象に制限が生じたことを指摘する。次に日系4世のアイデンティティ構成からは、エスニシティの重要性の低下とナショナリティの意義の上昇が連動し、彼らが志向する公共圏が「アメリカ」という枠組みに強く規定されていることを指摘する。結論部では、「社会の構成要素の多様性」の表現を「ナショナルな枠組み」の中で追究することの構造的問題について考察し、そのような構図を脱しようとする試みの可能性に論及する。

1. 問題の所在

1960年代から70年代にかけての一連の社会変革以降、アメリカの教育は基本的に多文化主義に基づく度合いを高めてきた。しかし他方で、公教育は国民養成の役割が期待される分野でもある。「国民の一体性」を強調しようとする国民教育の発想と「多元的な社会」を表現しようとする多文化教育の発想とは、歴史教育を主舞台にしてせめぎあい、1980年代以降に「文化戦争」として顕著となった。

そこでの相反する発想に依拠した歴史の語り口は、「国家主義的語り」(nationalist narrative)と「革新的語り」(leftist narrative)に整理されるものであった¹⁾。市

※筑波大学大学院人間総合科学研究科